校内研修計画

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　甲州市立塩山北小学校

１　学校課題

塩山北小学校は、塩ノ山の東に位置し、塩山温泉や向嶽寺など古くから文化的に栄えてきた地域にある。地域や家庭の学校教育への関心は高く、そのことは様々な行事への関わりからも実感することができる。

　 本校は、元気で素直な児童が多く、全体的に前向きな気持ちで学校生活を過ごしている姿が見られる。学習においては、課題に対する興味や関心をもちながら意欲的に学ぼうとする児童が多い。しかし、集中力や持続力、指示の理解、基礎・基本の定着や表現力等には個人差があり、個別の支援を必要とする児童複数名がいることが課題となっている。

令和６年度の教研式　標準学力検査CRTの結果分析では、学年ごとの差はあるが、知識、技能及び思考力、判断力・表現力の得点率が全国平均に比べて平均かまたはやや低いことが課題として挙げられた。見方・考え方を働かせる授業改善に取り組んだ教科では、全国平均に比べ思考力・判断力・表現力が高くなった学年もみられるが、結果からはまだ改善が必要と言える。このことから、学習内容の確実な定着を図る「指導の個別化」と、学習を深め、広げる「学習の個性化」を図り、各教科の見方・考え方を明確にしてそれを働かせる授業展開することで「個別最適な学び」を充実させることが必要であると考えた。更に、児童にとって必然性や有用性のある交流等を通して「協働的な学び」を充実させていく「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化して進める中で「主体的・対話的で深い学び」の実現をする必要性も感じた。　昨年までの研究や取組を継続しながら、さらなる授業改善を図り、児童が主体的に考え、学びを深めていくためにさらに研究を深めていきたい。

２　研究主題

「自ら学び続ける児童の育成」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ～児童の姿から見つめる、学習者主体の授業づくりを通して～

３　主題設定の理由

令和６年１２月１５日 中央教育審議会から出された諮問「初等中等教育における教育課程の基準等により在り方について」の中で、子供たちを取り巻く社会状況や顕在化している課題が出された。その課題に、「主体的に学びに向かうことができていない子供の存在」が一番に挙げられている。「学ぶ意義を十分に見いだせず、主体的に学びに向かうことができない子供の増加」は、喫緊の課題と言えるだろう。そこで、今後審議されていく内容が「質の高い、深い学びを実現する」学習指導要領の在り方等が提案されている。

「質の高い、深い学びを実現する」ことは、学校現場でも重要な課題である。「令和の日本型学校教育」の構築が進められている中、この新しい時代を生きる上で必要な資質・能力及び態度を確実に育んでいくために、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」という学びの「質」や「深まり」を重視していくことが必要である。「どのように学ぶか」ということは、いわゆる「学び方」が重要となってくるということである。その「学び方」の一つであり、「深い学び」の中核となるのが「見方・考え方」であると考える。「見方・考え方」は、令和３年度に出された答申の中で、「学びの『深まり』の鍵となるものとして、すべての教科等で整理されているのが（中略）各教科等の特質に応じた『見方・考え方』である。今後の授業改善等においては、この『見方・考え方』が極めて重要になってくる」と記載されている。学び方の一つである「見方・考え方」は、それを身に付けることによって、対象を深く理解することができ、自身の学びを進める一助になると言えるだろう。

また、昨年度の校内研にて。「深く学び、考える児童の育成」を主題とし、国語科・外国語科において見方・考え方をはたらかせる　授業づくりについて研究を進めてきた。国語科部会では、　国語科の目標である「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する」ための授業づくりや言語活動の設定のポイントについて研究を進め、外国語科部会では、児童が見方・考え方を働かせるような目的・場面・状況が的確に設定された言語活動を通して、深く学び、考える児童を育成するための手立てについて研究を進めてきた。また、英語教育改善プラン推進事業の研究指定校として、児童一人一人が自分の学習状況に合ったかたちで学習を進めることができるように個別最適な学びの時間をどのように充実させていくか、また小中高連携の在り方について研究することも並行して行ってきた。その中で全職員の共通理解を図りながら、発達段階や教科の目標、ねらいに基づき、理論研究と研究授業や一人一実践を通して学びを深める授業づくりの実践を行うことができた。

昨年度の研究で深めることができた国語科・外国語科の「見方・考え方」についての学びを、今年度は他教科にも広げ、実際に「見方・考え方」を明確に設定し授業を行うことで、「自ら学び続ける」児童を育成できるよう、目指していきたい。

４　研究の具体的内容と方法

　 （１）具体的内容

　　　　・主体的・対話的で深い学びへとつながる、見方・考え方を意識した系統性のある教材研究（理論研究）

　　・各教科における見方・考え方と汎用性のある資質・能力を用いた授業づくり

　　・児童が自分で選択し学びを進めていくためのヒントとなる、探究的な学習の流れがわかる掲示の作成

　　　　・WEBQUアンケートの実施及び結果分析

（２）研究の方法

　　　　　・授業研究及び研究会

　　　　　・一人一実践の参観およびその後のフィードバック

　　　　　・WEBＱＵアンケート結果分析、アタックシートを活用した学級集団づくり

５　　年間研修計画

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 回 | 月 | 日 | 研究内容 | 担当 | 備考 | TC要請 |
| １ | ４ | ４（金） | 昨年度研究について　今年度の研究の方向性 | 研究主任 | 全体会 |  |
| ２ |  | ９（水） | 今年度校内研究の計画と研究の組織づくり  研究の内容及び取り組みについて　　部会組織作り | 研究主任 | 全体会 |  |
| ３ |  | 23（水） | 国語の見方・考え方についてのワークショップ | 研究主任 | 全体会 |  |
| ４ | ６ | ４（水） | WEBQU分析・アタックシート作成 | 各学年 | ブロック |  |
| ５ |  | 18(水) | 算数の見方・考え方についてのワークショップ | 研究主任 | 全体会 |  |
| ６ | 7 | ９(水) | 一人一実践後の授業の振り返り | 研究主任 | 全体会 |  |
| ７ | ８ | 25（月） | 見方・考え方等　掲示物の作成 | 部会長 | 部会 |  |
| ８ | ９ | ３（水） | 部会研究（教育課程還流報告会） | 部会長 | 部会 |  |
| ９ |  | 24（水） | 一人一実践後の授業の振り返り | 研究主任 | 全体会 |  |
| 10 | 10 | 15（水） | 一人一実践後の授業の振り返り | 研究主任 | 全体会 |  |
| 11 |  | 30（水） | 研究授業　指導案検討 | 授業者  研究主任 | 全体会 |  |
| 12 | 11 | 6（水） | 一人一実践後の授業の振り返り | 研究主任 | 全体会 |  |
| 13 |  | 12（水） | 研究授業 | 授業者  研究主任 | 全体会 | 〇 |
| 14 |  | 26（水） | WEBQU分析・アタックシート作成 | 各学年 | ブロック |  |
| 15 | １ | ２２（水） | 本年度研究のまとめ | 研究主任 | 全体会 |  |
| １６ | ２ | 25（水） | 研究の成果と課題・来年度の方向について | 研究主任 | 全体会 |  |

（研究主任　市川安紀）